

三原市の男女共同参画の推進について

市では、男女共同参画社会の実現に向けて、平成19年3月に策定した男女共同参画プランに沿って具体的な取り組みを進めています。庁内組織として推進本部を設置し、プランの推進に努めていますが、すべての施策において順調に目標値に近づいているわけではありません。



そのため、幅広い意見及び助言をいただき、市の男女共同参画行政の効果的な推進を図るため、男女共同参画推進懇話会を設置しています。この懇話会は、公募委員にも加わっていただき、さまざまな分野の関係団体の代表など12人の委員で構成しています。

平成21年12月に第1回の会議を開催、平成22年9月までに7回の会議を重ね、男女共同参画プランの進捗状況の点検評価や男女共同参画に関する条例について検討しています。

また、広く条例作りについて市民の皆さまの声をお聞きするため、公募により選ばれた市民12人によるワークショップも開催しています。

今後も、男女共同参画社会づくりに向けた具体的な取り組みを推進していきます。

男女共同参画講演会

三原市では男女共同参画社会の実現に向けて、毎年、三原市教育委員会主催(みはらウィメンズネットワーク企画)で「みんなの男女共同参画講演会」を開催しています。

今年は、男女共同参画週間(6月23日から29日)期間の6月27日市民福祉会館において、講師に木村まさ子さんを迎え、「日々の中の大切なこと」と題した講演会を開催し、150名の参加があり、会場が満員になりました。

木村 まさ子さん プロフィール

ことのは語り。子育て体験から、心に届く言葉(ことのは)を子どもに語りかけることの大切さを伝える。また、レストラン経営の体験から、いのちをいただくことを意識して食べることの大切さを伝える。医師の日野原重明先生の『10代いのちの授業』にも協力。著書に『育みはぐくまれ』(グラフ社)。



言葉には力があります。

年を重ねることをマイナスではなくプラスに楽しんで

アンチエイジングではなく年をとっていく自分を楽しみたい。今の自分の命がどんなに大切なものか。自分を好きになり、自分を愛することで愛や感謝の気持ちが生まれます。



今よりもっといい未来・わくわくする未来を迎えるために今を大事に生きてください。

大人がにっこり笑って生きていけば子どもたちに元気が伝わり、夢や希望を見つけだすのです。

「いただきます」

私が一番大切にしている言葉「いただきます」は食べ物に対する感謝の言葉です。食事は命をいただくもの、そのものの命をかわっていただき、自分の命を永らえさせてもらう素晴らしい言葉です。「いただきます」と言葉を発してからお箸をとっていますか。大人がしていることを子どもは見習うのです。

日々の中にある大切なこと

箸置きに置いてある箸を使って食事することが大切です。旬のものを食べると命が喜びます。

気持ちよく「はい」と返事をし、まっすぐ腕をあげることが大切です。

「おいしいね」と大きな声で語尾をあげて言うと気持ちがよく口角が上がるので笑顔になります。

自分の心と真摯に向き合う

私はダメだ。私なんか、どうせは自己否定の言葉です。そんな思いでいれば自分の命・体が反応し、命が悲しみます。自分の言葉が自分自身を一番癒すこともあります。

「つらかったね。えらかったね。」鏡を見て自分に声をかける。自分を褒める。自分をねぎらってあげてください。

講演では、2人の息子の子育て体験から心に届く言葉(ことのは)を子どもに語りかけることの大切さや、命をいただくことを意識して食べることの大切さ、自分を大事にする生き方についてのお話をされました。

参加者からは「壇上から降りて会場の参加者に次々とマイクを向けられ、とても親しみがわきました。」「木村先生の涼やかなお声と凛としたお姿が印象的でした。」「日々小さな感動を大きな喜びに変えて毎日楽しく過ごしていければいいなと思いました。」との感想がありました。